

## 2021年度 教育臨床総合センター 活動報告

### はじめに

本センターは、教育臨床及び発達臨床に関わる理論的、実践的及び学際的研究を行うとともに、学校教育の諸問題に適切に対処することのできる教員及び援助専門職者の養成に寄与することを目的としている。本センターでは、こころの支援研究部門とそだちの支援研究部門という2つの部門を設置して活動を行っている。

それぞれの領域での独自性を尊重しながら行ってきた活動に加え、協働できる事業を拡大し、これまで以上の教育臨床拠点体制を構築していくように努めている。

以下、両部門が連携して行った事業、こころの支援研究部門及びそだちの支援研究部門が独自に行った事業ごとに、活動成果を報告する。

### I. 部門共通の活動

#### (1) 研究活動

\*教育臨床総合センター紀要第11号に投稿された論文数は以下の通りである。

- ・こころの支援研究部門 投稿論文数 4本

#### (2) 公開講演会事業

本年度は、長年、日本版WISCの刊行等に携わってこられた大六一志先生（放送大学客員教授）に講師をお願いし、コロナ禍の感染状況を考慮し、Zoomを通して、下記講演会を実施した。参加者は、一般参加者60名、本学学生・院生33名本学教職員11名の計104名であった。WISC-Vの刊行に合わせた実施だったので、受講者の関心も高く、大六先生の詳細かつ分かりやすい説明のもと、新たなWISC-Vに関わる知識はもとより、知的発達のアセスメント全般について理解を深める機会となった。

- ・日 時 2022年2月27日（日）13：30-15：30
- ・場 所 愛知教育大学第二共通棟3階431教室にて実施予定であったが、コロナウィルス感染拡大によりオンライン（Zoom）開催に変更
- ・内 容 「日本版WISC-Vの理解と応用—知的発達のアセスメントはどう変わるか—」  
講師：大六一志氏（放送大学客員教授・元筑波大学教授）  
司会：飯塚一裕氏（愛知教育大学 特別支援教育講座）

#### (3) SOBAの活動

- ・SOBA（Symposium of Bullying in Aichi）の概要  
学生を主体としたボランティア団体であり、「いじめ」や不登校などにより弱い立場に置かれた子どもに寄り添う活動をめざしている。
- ・例会（毎週火曜日）  
子どもや若者同士で互いの問題を解決する「ピア・サポート」的活動について学習している。具体的テーマとして、発達障害のある子どもの支援、ソーシャルスキルやエンカウンターにかかわるコミュニケーションワークのワークの実践など。

#### (4) 教育臨床カフェの活動

##### ・教育臨床カフェの概要

教育学研究科修士課程教育支援高度化専攻臨床心理学コース大学院生の運営。

学生主体によるアクティブラーニングによる学びや知の交流の拠点づくりをめざし企画活動を実施。

心理教育や支援者支援という包括的な活動のテーマを掲げ、教育支援人材が学校教育にどのように貢献できるかを探求することを目的としている。

##### ・教育臨床カフェ テーマ「就学相談から小学校への支援」

日時 2022年2月28日(月)

講師 山岡 美和先生 (安城市子ども発達支援課支援係・本学修了生)

場所 オンライン開催 (配信元: 本学イノベーション棟)

参加者 33人 (参加者28人、関係者5人)

## II. こころの支援研究部門

### (1) センター協力員対象事例検討会

本事業は教育臨床総合センター・センター協力員を対象とした卒業後教育事業である。学校教育臨床専攻の修了生の約9割は、本専攻修了後、臨床心理士資格試験を受験し、資格を取得してスクールカウンセラーや児童心理司、医療、福祉、司法関係などの多岐にわたる心理臨床領域で就労をしている。現行の規定では臨床心理士資格は5年更新制であり、資格取得後も弛まぬ鍛錬を必須とするものである。本事業はこうした実情を鑑み卒業後教育活動を充実すべく、主に学校教育臨床専攻の修了生(教育臨床総合センター・センター協力員登録をした者も含む)を対象に、学内外の講師をコメンテーターとして招き年間10回実施される事例検討会である。

本検討会の世話人は同センター協力員、関雅樹氏が担当し、顧問は教育臨床研究部門担当教員 下村美川教授が担当をした。本事業は、臨床心理士の資質向上ならびに東海地方の教育医療機関をはじめとするさまざまな組織におけるメンタルヘルス向上に寄与する間接支援としても意義あるものと思われる。

第1回:	2021年	4月30日	コメンテーター	下村美川 (本学心理講座教授)
第2回:		5月21日	コメンテーター	安藤久美子 (本学心理講座講師)
第3回:		6月15日	コメンテーター	樋口亜瑞佐 (本学心理講座准教授)
第4回:		7月16日	コメンテーター	高橋蔵人先生
第5回:		9月17日	コメンテーター	山内恵理子先生
第6回:		10月15日	コメンテーター	石黒直生先生
第7回:		11月16日	コメンテーター	原 幸一 (本学心理講座教授)
第8回:	2022年	1月21日	コメンテーター	來多泰明先生
第9回:		2月18日	コメンテーター	高橋靖子 (本学心理講座教授)
第10回:		3月18日	コメンテーター	鈴木伸子 (本学心理講座教授)

## (2) 心理教育相談室スタッフ対象事例検討会

本事業は、教育臨床総合センター教育臨床研究部門の下位組織である心理教育相談室の相談室スタッフ対象の研修事業である。本事例検討会は心理教育相談室長高橋靖子心理教育相談室に関わる全相談室スタッフによって組織されており、本事例検討会への一定回数以上の参加が当相談室スタッフの登録の必要要件となっている。ここでは心理教育相談室の事例検討を通して心理教育相談活動の質的向上を目指すとともに、同相談室の枠組みやルールについてスタッフ間で共有を図っている。

第1回：2021.4.17	コメンテーター	高橋靖子	(本学心理講座教授)
第2回：5.22	コメンテーター	下村美刈	(本学心理講座教授)
第3回：7.17	コメンテーター	鈴木伸子	(本学心理講座教授)
第4回：10.30	コメンテーター	樋口亜瑞佐	(本学心理講座准教授)
第5回：12.18	コメンテーター	安藤久美子	(本学心理講座講師)

## (3) リカレント教育に関する事業(内地留学生関連事業)

愛知県教育委員会との連携事業として内地留学生3名(愛知県総合教育センターの長期研修制度を利用)を受け入れており、当センターにて教育相談等に関する研修ならびに研究指導を行っている。本学への内地留学の期間は約1年間で、水木金は本学で研修・研究を行い、月火は愛知県総合教育センターにて相談活動を中心に行っている。本事業はこころの支援研究部門担当教員の安藤久美子講師を中心に、心理講座の鈴木伸子教授、心理講座の高橋靖子准教授、樋口亜瑞佐准教授の協力を得て行われた。各内地留学生の氏名および研究テーマは以下の通りであった。

- ・長瀬 敦「高校生のSNS利用における傍観行動とコミュニケーションスキル  
-LINEグループ利用場面を想定して-

## (4) 心理教育相談室における相談活動

心理教育相談室の相談活動の詳細は「心理教育相談室活動報告」を参照のこと。

## (5) アイリスパートナー派遣事業

平成19年度より学校教育臨床専攻臨床心理学コースの大学院生を不登校児童・生徒支援ならびに学級適応支援として各附属学校に派遣している。加えて平成22年度より豊明市教育委員会との共同事業として、豊明市内の小学校への派遣も実施している。

### 附属学校への派遣

附属岡崎小学校(大学院生12名)	<担当教員>高橋靖子教授・鈴木美樹江准教授
附属名古屋中学校(大学院生2名)	<担当教員>下村美刈教授

### 豊明市教育委員会との共同事業

豊明小学校(大学院生1名)	<担当教員>鈴木伸子教授
豊明中央小学校(大学院生1名)	<担当教員>鈴木伸子教授
杏掛中学校(大学院生1名)	<担当教員>鈴木伸子教授

### Ⅲ. そだちの支援研究部門

#### (1) 発達支援相談室における相談活動

令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響下、緊急事態宣言下の休室などの対応をとるなか、対面支援のみならず、zoom等による遠隔支援を併用する形で活動を行った。

令和3年度の登録件数は49件（セッション総数761回、うち遠隔支援62回）となっている。2021年度相談活動の詳細については、後述の「令和3年度発達支援相談室活動報告」を参照のこと。また、次にグループプレイセラピー、アセスメント事業等の概略を紹介します。

#### (2) グループプレイセラピー

発達支援相談室では、対人関係・集団場面での問題を抱える子どもを対象としたグループプレイセラピーを平成21年12月から始めた。令和3年度は令和3年5月～令和4年2月の間に計12回実施した。参加対象児は3名で通常の学級あるいは特別支援学級に在籍している小学校5年生～6年生で、全員が発達障害の診断を受けているか、もしくは発達障害の傾向を指摘されていた。

プレイセラピーの運営は、相談室にセラピスト登録している特別支援学校教員養成課程や特別専攻科の学生が、スタッフとして携わり、対象児の担当や全体のプログラム進行などの役割を担っている。なお、昨年度に引き続き、令和3年度も新型コロナウイルス感染大の状況により、対面ではなくオンライン会議システム（Zoom）を使用した遠隔形式で実施した。また対象児の保護者へのグループディスカッションは実施せず、別途個別に面談を行った。

#### (3) アセスメント事業

相談室を利用するクライアント（多くはその保護者）や他機関からの依頼に基づき、発達検査や知能検査を実施した上で、クライアントのアセスメントを行っている。検査実施の理由の多くが「小学校や中学校における学業面の困難さ」であり、多くのクライアントが発達障害を有すると思われる子どものため、主にWISC-IV知能検査を実施している。検査実施後は検査結果と所見を保護者に説明し、子どもの状態像の説明や関わり方のアドバイスなどを行うほか、必要に応じて、他機関の紹介や、学教員へのコンサルテーション、相談室における発達支援を実施している。

#### (4) 発達障害児への学校支援ボランティア事業

また、発達障害児のための学校支援ボランティア派遣事業を平成18年度から行っている。2021年度は、近隣の小学校1校に3名の学生を派遣した。

#### (5) 学生スタッフへの研修活動

発達支援相談室の活動に携わる教員・セラピスト・学生セラピストが参加するケースカンファレンスを、金曜日の午後5時40分～7時30分に行っており、2021年度は計9回実施した。

#### (6) 感情のコントロールに焦点を当てた指導プログラムの実施

令和3年度、12月から3月にかけて計5回（1回2時間）、家庭場面で不適応行動が生起している自閉スペクトラム症児に対し、感情のコントロールに焦点を当てたSSTプログラムを実施した。対象児は小4から中1の男児4名である。岩本佳世講師が全体計画を立案・統括し、鈴木伸子教授、飯塚一裕准教授、吉岡恒生教授が共同実施した。ビデオ撮影、指導教材作成補助、SST実施補助として、大学院生5名と学部学生6名、特別専

攻科学生4名が参加した

### (7) 社会貢献・地域連携活動

当部門の担当教員（飯塚一裕准教授・吉岡恒生教授）が行った主な学会発表や講演会，地域連携事業などは次のとおりである。

飯塚准教授

- ・5月27日(木)から2か月に1回 年間6回 刈谷市中央子育て支援センター「らっこちゃんルーム」 相談員・講師
- ・6月12日(木) 令和3年度豊田市就学相談会（パルクとよた） 相談員
- ・7月28日(水)，1月26日(水) 碧南市特別支援教育連携協議会（碧南市役所） 委員
- ・7月30日(金) 令和3年度愛知県総合教育センター研修「特別支援教育講座」講師
- ・8月25日(水)，10月13日(水) 碧南市特別支援教育連携協議会（碧南市役所） 委員
- ・11月5日(金) 附属特別支援学校特別支援教育研究協議会 助言者・共同研究者
- ・11月16日(火) 令和3年度第3回市町村特別支援教育推進者資質向上研修会（東三河地区・豊橋市教育会館） 講師
- ・1月12日(水) 刈谷市特別支援教育連携協議会（刈谷市役所） 委員
- ・1月18日(火) 岡崎市立竜谷小学校研修会「発達障害児への教育支援の在り方」講師
- ・1月25日(火) 令和3年度稲沢市特別支援教育推進事業・学校コンサルテーション（稲沢市立法立小学校） 講師

吉岡教授

- ・7月2日(金)，2月18日(金) 令和3年度 岡崎市特別支援連携協議会 会長（2月18日は感染拡大によりメール開催）
- ・10月6日(水) 愛知県総合教育センター特別支援教育相談事例会議 助言者
- ・11月16日(火) 愛知県幼稚園連盟Web研修会「就学前の発達障害児支援の課題」講師
- ・2月9日(水) 愛知県立特別支援学校部主事会研究協議会「障害者の家族を支援する私を見つめる」講師